



今月は「レバノン」を覚えてお祈りください

レバノンは、西アジア・中東に位置する共和制国家。北から東にかけてシリアと、南にイスラエルと隣接し、西は地中海に面している。首都はベイルート。

レバノンの経済・政治・宗教について

レバノンは70年間の悲劇的な共同戦争と外国の介入の後に回復を試み続けている。戦争や紛争は人口の80%以上を避難に追いやった。一方、パレスチナ、イラク、シリアなどから、レバノンには100万人以上の難民が避難を求めて訪れている。

地元のキリスト教徒や駐在員は、多くの困窮者に対する思いやりとキリストの愛を示すために協力している。2019年の大規模な草の根の抗議行動は、政府の腐敗、エリート主義、経済発展をもたらすことができない人々に対して、分断されていた人口を団結させた。政府は辞任したが、レバノンの多くの政治的、経済的問題に対する長期的な解決策は見つかっていない。

2020年のベイルートでの大規模な爆発と新型コロナウイルス感染拡大の影響は、レバノンの苦境をさらに激化させている。聖書と深いかわりのあるこの地は、父なる神様の愛と憐れみと豊かな祝福を受けるために、今特に祈りを必要としている。

レバノンのその他の情報

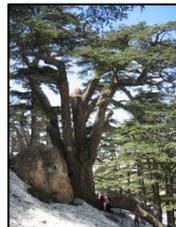
面積:10,230 km² (日本の約2.8%) 人口:6,769,151(日本の約3% 2020年時点)



内戦によって破壊された首都ベイルート(1978年)



現在のベイルート



レバノン杉の木

宗教:	
イスラム教	58.96%
キリスト教	31.97%
その他	7.00%
無宗教	2.05%
バハイ教	0.02%

「最も小さい者も氏族となり、最も弱い者も強国となる。時が来れば、わたし、主が、すみやかにそれをする。」 イザヤ 60:22

祈禱課題

未伝部族や民族を覚えて

イエスによって救われキリスト教に属することは法律では認められているものの、キリスト教以外の文化や宗教から離れてイエスに従うには大きな犠牲を覚悟しなければならない。そのような中でも、キリスト教人口は確実に増加している。

イスラム(シーア派)に属する人々—レバノンにおいて最も人口増加が早く、影響力が強い民族。彼らの多くは国の南である南ベイルートやベッカー高原に住んでいる。彼らの多くはイランからの支援を受けているヒズボラの政党(神の党)を支持している。シーア派の人々の中にはキリスト教に回心する者が起こされている。キリスト不在の宗教はむなししいものであることを知ることができるように。

イスラム(スンニ派)に属する人々—レバノン北東に定住している。またベイルート、トリポリ、シドンといった町々にもスンニ派の人々が住んでいる。

イスラム(ドルーズ派)に属する人々—彼らのコミュニティーの絆はとて強く、組織力が強い。彼らが住んでいる中心地はベイルート東に位置する山地である。彼らが信じているものはイスラム教から枝分かれしたものだ;しかし、彼らの内の約20%しかこの教えを真剣に信じていない。彼らの中からは数百名のクリスチャンがおこされている。ドルーズ派の人がクリスチャンになるといわゆる「隠れた信者」となることが多いが、中には地域教会に属するようになる人々もあり、キリスト信仰をシリアに戻って帰って伝えている。

パレスチナ人—彼らの多くは悲しみ、貧困そして公民権のはく奪といったことを経験しており、その現状を完全に解決することは難しい。とくに難民キャンプに住む人々の状況が大変だ。彼らの中には福音派のクリスチャンも少数いるが、大多数はイスラム教徒で未伝である。

貧困や恵みまれない状況にある人々—貧困に苦しむ多くがイスラム教徒である。目や耳が不自由な人、身体的に不自由な人々は、社会から見捨てられていることが多い。この人々に対してはクリスチャンの働き人たちが働いている。貧困や恵みまれない状況にある人々に対してキリストの愛を伝える働き手が多くおこされなければならない。